

2024 年度 第 1 回 第三者定期監査結果の報告について

I. はじめに

当社は、2004 年度に策定した「品質保証体制の改善策」の実行状況と PDCA の展開状況について、第三者外部監査機関である LRQA リミテッドによる継続的な確認を受け、品質マネジメントシステム（以下、「QMS」と記す。）の継続的な改善を図ってきた。

2024 年度第 1 回は、ウラン濃縮工場遠心分離機への六フッ化ウラン供給停止の原因となったトラブル事例に焦点を当てた 2024 年 4 月追加監査での提言事項を踏まえ、濃縮事業部に対しては改善した設備の引継ぎの運用を確認いただいた。上記提言事項は他事業部の改善にも寄与する可能性があることから、再処理事業部・技術本部および埋設事業部については将来の引継ぎに備えた現在の運用を確認いただいた。そのほか、全社の QMS に係る活動の推進を担う安全・品質本部に対しては各事業部の活動の監視、独立した立場で監査を行う監査室に対しては内部監査で改善点はないかを確認いただいた。

II. 監査結果の概要(2024 年度 第 1 回 第三者定期監査報告書を抜粋し要約)

1. 監査項目

- (1)QMS 活動の実施状況
- ・引継ぎの運用（濃縮事業部、再処理事業部・技術本部、埋設事業部）

・全社部門としての監視（安全・品質本部）

・内部監査（監査室）
- (2)前回までの監査結果のフォローアップ
- 濃縮事業部に対する追加監査提言事項（3 項目）の改善状況
- ・設備変更後の確実な引継ぎを行うこと

・運転部門が最後の砦となるべく主体性を持った運転および設備管理を行うこと

・操作手順外の作業が生じた場合は確実にリスク評価すること

2. 監査結果

- ・2024 年 9 月 4 日～9 月 17 日に行われた監査の結果、「指摘事項」および「観察事項」は抽出されず、「提言事項」1 件および「良好事例」3 件が提示された（添付参照）。
- ・今回の監査範囲において、PDCA を展開して継続的な改善に取り組まれており、QMS 活動は適切であると判断された。

|      | 濃縮事業部 | 再処理事業部<br>技術本部 | 埋設事業部 | 安全・品質本部 | 監査室 | 計 |
|------|-------|----------------|-------|---------|-----|---|
| 指摘事項 | 0     | 0              | 0     | 0       | 0   | 0 |
| 観察事項 | 0     | 0              | 0     | 0       | 0   | 0 |
| 提言事項 | 0     | 0              | 0     | 1       | 0   | 1 |
| 良好事例 | 1     | 1              | 0     | 0       | 1   | 3 |

指摘事項：定めた要求事項が実践・実行されていない事項。不適合相当であり是正が必須。

観察事項：定めた要求事項がほぼ実践・実行されているが、その程度が必ずしも十分でないため、何らかの改善を期待する事項。

提言事項：定めた要求事項が実践・実行されている。その上で、今後のより優れた運用を期待して参考提言する事項。提言事項の採否は、被監査部門の任意とする。

良好事例：さらなる自律的改善が図られており、他の部署にも参考となる事例。

3. 監査所見

＜濃縮事業部＞

前回の追加監査の提言事項は次のように改善されていた。

「設備変更後の確実な引継ぎを行うこと」については、工事前に保全部門が運転管理課と設計上問題がないかの評価（デザインレビュー）を行っていた。

「運転部門が最後の砦となるべく主体性を持った運転および設備管理を行うこと」については、運転管理課が自主管理できる姿を目指して評価技術の構築（保全所掌の濃縮度測定装置のピーク調整作業に参画）などの施策を展開していた。

「操作手順外の作業が生じた場合は確実にリスク評価すること」については、想定外事象発生時に作業を中断し新たな手順の検討とリスク評価を行うプロセスに手順書が見直されていた。

＜再処理事業部・技術本部＞

技術本部から再処理事業部への引継ぎは、細則に則って具体的に引継ぐことが定められており、第 2 ユーティリティ建屋 (GC2) の引継ぎは計画に沿って準備されていた。

技術本部は同建屋について約 10 年の点検・保全経験を有しており、引継ぎした後の中長期運転を見越し、再処理工場の各保全部門にまで説明会を実施していた。

＜埋設事業部＞

保全課から運営課への引継ぎは細則に則って工事開始前の「作業計画書」や工事完了後の「作業報告書」を作成するなど着実な運用が行われていることを確認した。保全課・運営課はともに埋設運営部の組織であり、モーニングミーティングなどで工事請負会社も含めて日常的に緊密なコミュニケーションおよび情報共有ができていた。

＜安全・品質本部＞

全社 QMS を監視する活動は、品質目標の実行計画と実施状況確認書の中で全体スケジュールと進捗状況が見えるようになっていた。重要な課題については監視計画を作成し、定期的に会議体で報告されていた。また、PICO<sup>\*1</sup>への情報提供、水平展開に係る CR<sup>\*2</sup>のスクリーニングなどを実施していることを確認した。

※1 PICO（Performance Improvement Coordinator）：組織におけるパフォーマンス改善活動に関して中心的な役割を担う者

※2 CR（Condition Report）：本来あるべき状態とは異なる状態、すべき行動から外れた行動や結果等に関する情報

＜監査室＞

内部監査における重点事項については、年度計画策定時点における各被監査者の個別業務などの状態と重要性、至近の監査結果を考慮した上で検討されていた。他社トラブル事例のベンチマークなどを加え内部監査を計画・実施していることを確認した。

III. 監査結果に対する日本原燃の取組み

2024 年度第 1 回の定期監査で示された「提言事項」1 件に対して、当社は対応方針(添付参照)に基づき処置を実施した。

IV. 今後の予定

2024 年度第 2 回の定期監査を 12 月に予定している。対象は、濃縮事業部、再処理事業部・技術本部、埋設事業部および安全・品質本部となる。

第三者外部監査の抽出事項

提言事項

| No. | 監査項目       | 第三者外部監査機関により確認された提言事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 日本原燃の対応方針                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 対応部署                         |
|-----|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1   | 全社部門としての監視 | <u>OE スクリーニング会議などでの判断や考え方のドキュメント充実を図ること</u> <ul style="list-style-type: none"><li>・保安監視グループでは、重要な課題の抽出や展開用 CR のスクリーニングなどはグループミーティングで議論している。</li><li>・ただし、展開用 CR のスクリーニングについてどのような議論の結果で抽出することにしたのか、または抽出しないことにしたのかを確認することができなかった。</li><li>・活動が組織として行われていることを残しておくほか、今後同様の事象が発生した際に参照することもできるので、これまでは残していなかった判断や考え方をドキュメントとして残すことを提言する。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・重要な課題の抽出においては、監視計画の中で選定理由等そのテーマに至った根拠を記載していた。また、展開用 CR のスクリーニングにおいては、検討した内容や結果をグループ内資料に残すとともに、PICO 全体会議資料に展開理由を記載し、会議で各事業部に展開する運用としていた。</li><li>・しかしながら、特に展開用 CR のスクリーニングにおいては、検討した結果のみを示し、必ずしも経緯が明確となっていないものもあることから、書類に選定、検討経緯を明確に残すよう、保安監視グループの業務管理マニュアルに規定することとする。</li></ul> <p>処置完了日：2024 年 10 月 4 日</p> | 安全・品質本部<br>品質保証部<br>保安監視グループ |

良好事例

| No. | 監査項目   | 第三者外部監査機関により確認された良好事例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 実施部署                                                  |
|-----|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 1   | 引継ぎの運用 | <u>引継ぎルール明確化だけでなく工事前に打合せとデザインレビュー（DR）を行っている</u> <ul style="list-style-type: none"><li>・工事前に保全部門は運転管理課と打合せを行い、引継ぐ手順書を明確にしていた。</li><li>・保全管理課は引継ぎの各種打合せに際し、スケジュールを作成し、工事主管である機械保全課、電気計装保全課に進捗が見えるようにしていた。</li><li>・保全部門は工事前に運転管理課メンバーとデザインレビュー（DR）を実施していた。</li><li>・抜けのない確実な引継ぎを行っており良い。</li></ul>                                                                                                        | 濃縮事業部<br>ウラン濃縮工場<br>濃縮保全部<br>保全管理課／<br>濃縮運転部<br>運転管理課 |
| 2   | 引継ぎの運用 | <u>引継ぎ部署だけでなく将来の保全も見据えた引継ぎを行っている</u> <ul style="list-style-type: none"><li>・設計グループは第 2 ユーティリティ建屋（GC2）について建屋建設から長期に亘る点検・保全のノウハウを蓄積している。</li><li>・引継ぎに関しては将来の引継ぎ部署となるユーティリティ施設課への説明を現場で実施していた。</li><li>・引継いだ後の設備の保全も重要なことから再処理事業部の保全部署（計装技術課、計装第二課、電気技術課、電気保全課、火災防護課、機械技術課、共用機械課）に対して説明会を実施していた。</li><li>・直接の引継ぎ部署だけでなく将来の保全も見据えた引継ぎを行っており良い。</li></ul>                                                   | 技術本部<br>エンジニアリングセンター<br>設計部<br>設計グループ                 |
| 3   | 内部監査   | <u>改善事項を次の監査チームへ引継いでいる</u> <ul style="list-style-type: none"><li>・内部監査終了後に、アンケートを通じて被監査者から寄せられた意見や監査チームメンバー自身による振返りから抽出された改善事項を検討し、内部監査結果とともに、広く内部監査員に共有されていることを確認した。</li><li>・改善事項には①監査ルールへの反映を検討するもの、②この被監査者に対する次年度監査に向けて検討するもの、③当年度の次の監査に向けて検討するもの、として整理され、特に②この被監査者に対する次年度監査に向けて検討するものについては次年度の監査チームへの引継ぎ事項となっていた。</li><li>・本取組みは 2024 年度の監査室品質目標実行計画で管理されていた。</li><li>・内部監査の改善につなげており良い。</li></ul> | 監査室<br>監査部<br>品質監査グループ                                |